

「福音の再確認」



大沢バイブルチャーチ 牧師
日光オリーブの里 理事

関根辰雄

昨年の夏に入院、大腸と胃の手術を受けて、身動きできないでいる時「われ自ら汝と共に行くべし、われ汝をして安らかならしめん。」(出エジプト33章14節)(文語訳)と鮮やかに主が語りかけてくださった。

以来、退院し休みなく奉仕しているが、この聖句が心から離れないでいる。クリスマスになり、インマヌエル・「神我らとともにいます。」のメッセージを何か目新しい思いでご用させて頂いた。

何十年も前から知りきっている福音の真理、若いときから教えられていた「臨在信仰」、今までも礼拝説教で、他教会の聖会奉仕等で何度も語ってきた「この奥義はあなたの内にいますキリスト。」

「主がわたしと共にいます。」、救われて63年、牧師になって56年、この単純明白な福音の真理を今更の如くに再確認させて頂き、真理を知ることと体験することとの距離感を感じた次第です。

昨年春、TPCの役員研修の時があり、招かれて日光にあるオリーブの里でご一緒に祈りの時を持った。かねてから「一年毎日礼拝」の集会を持っていることを伺っていたので興味もあった。大ベテランの牧師たちでは無い。大教会の牧師たちでも無い。ただ、この福音の素晴らしさに毎日礼拝を主に捧げようという切なる願いを実行しているグループである。有り余る予算があるわけでも無い。毎日礼拝説教する牧師を年間確保しているわけでも無い。果たして何人集まるのか?その見通しも定かで無い。でも11月私が奉仕した月には「三周年記念会」が開かれていた。

私は、5千人の給食のためにイエス様から命を受けてパンを探しに出かけ、少年の弁当を見つけて持参したアンデレを思い出した。一方で、計算が先に立つピリポは200デナリのパンでも足りない、とても話にもならないと思っていた。

大東京のど真ん中で、二匹の魚と五つのパンが主の手に握られて祝福されるときがきつとあります。

TPCの活動目的

- (1)閉塞感のある日本のキリスト教会に元気を与える
- (2)超教派として活動する
- (3)毎日、礼拝を捧げ、祈り会を行う
- (4)伝道、学びなどのために貸室を提供する